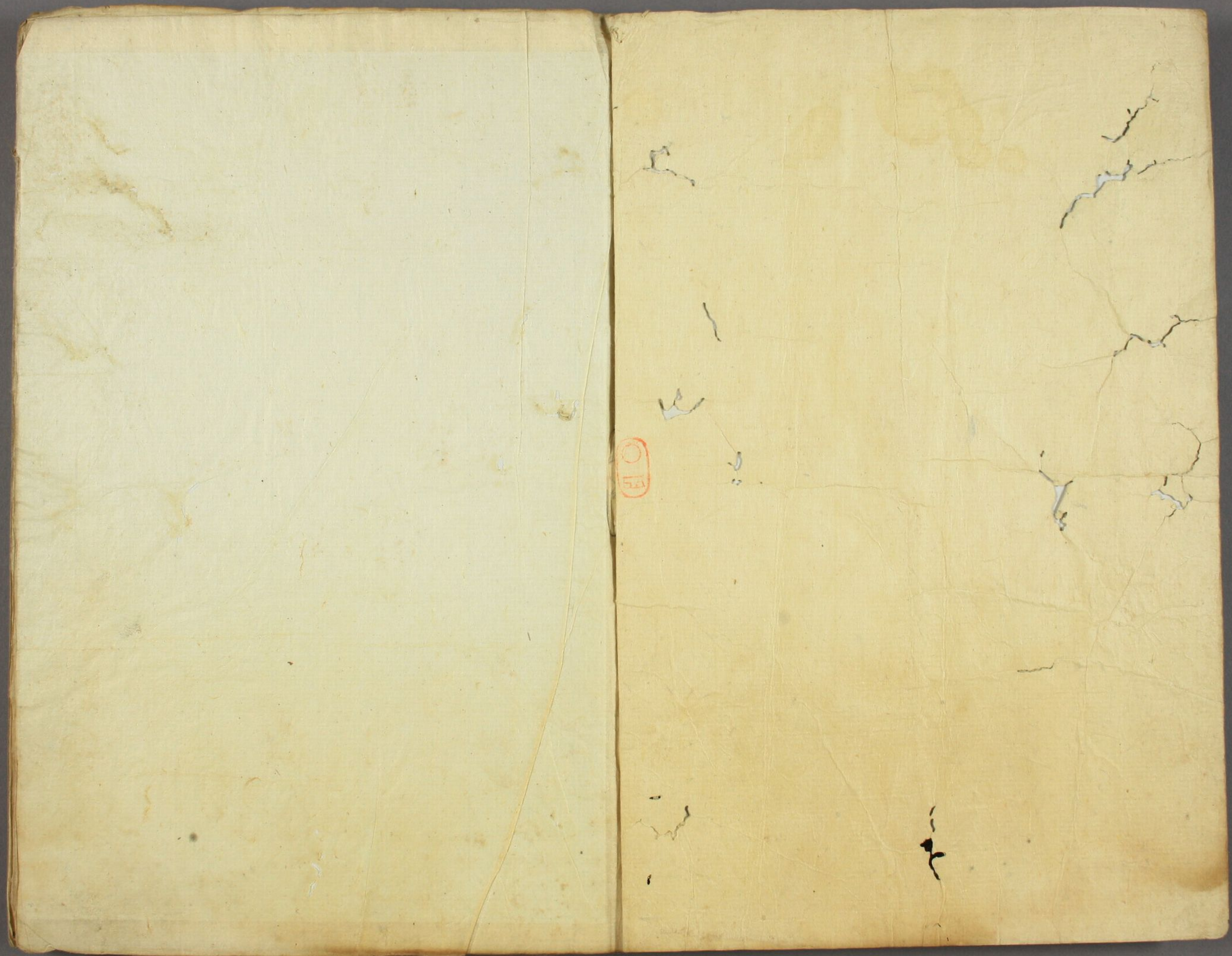


漁氏流活花記天

東南村
宗野氏藏書





10



千葉龍卜宗匠著

源氏活花記

東雲堂刊



活花記序

今夫京都之盛人物之稠
才異能之士妍技盡藝之
如蜩集如蜂語能端倪極乎
有都千葉就卜者世以插花
為業其之流行風仕東山於府受

技于相公云龍卜之之曰折挿
之為技也必順之以活其案保
之精焉其天全之後生氣活矣
其能奪造化之巧在也世或之始
動輒及于曲而索美則美然之
其案衰其精離矣又何異之剪

練美字辟法亦良如錦繡羅縠
之美而亦有黼黻文章之貴
知五味耳脆之滋而多也有大
美玄酒之上今末于東都厥
可之技者書一卷名曰活花
記雖頗俚諷諷俗之要人

1764

易解藏之故予集其以之
技也深有味於大至其之無
哉偶依泥竹而法之予集
余嘉其之長志之勉焉述之
以作書以并其首之亦
明和之年甲申獨月。

筆者曰明和之年、明治廿九年、
其百三十一、

朝野大夫秘書監林信忠撰



自叙

夫生花の書院第一ノ嚴としテ貴賤人ヲ敬フ饗應ノ
一ナリ故ニ久カタノ天ニテハ月アラカネノ地ニテハ花送代ノ
清淨ナルモノ此上ニ及モノアラジ先人ノ心ヲ和ラゲ
長生ノ種子凡百樂ニモ越タリ天竺ニテハ世尊大衆ニ
花ヲ指上見セ給フ迦葉獨破顔微笑シテ悟ノ助トナス
又双林ノ莊嚴ヲ移シ寺院ノ三具足モ真ノ飾ニシテ
花ヲ第一ノ手向トナシ震旦ニモ孔子孟ノ花言筆談ニモ

述^ベカクシ陶淵明ハ東籬ノ菊ニ戯テ舞扇ヲ裂ク因
 茂叔ハ蓮ヲ愛シテ君子ニ仕ラ志マメヤカナリ李唐ヨリ世人
 牡丹ヲ花王タリト賞シシ莊子ハ夢ニ蝶トテリテ百年ノ
 花ニ極フ是皆自然ノ花ノ徳タリイデヤ我日本^ニシテハ
 カケマクモカシコキ神代ノ往昔ヨリ花ノ艶ヲ讚テハ
 本^ノ花咲クヤ媛ノ身アリ鳥居ヲ花表トモ書キ或ハ
 逆蝶ナス神ヨリサメ公ニ花鎮メノ祭行ル又管公ノ詠
 ニ梅^ハ筑紫ノ花ヲ神慮ヲ慰メスベテ神詠神詠ノ

花用耶媛
 管公管ノ
 詠ナリ

花^ニ比ス事詞ニモ満テリ王仁ハ難波津ノ宮ヲ梅ニ
 タトヘテ諫メ聖武天皇ハ三笠山ノ八重櫻^ニメデタマヒ
 奈良ノ都ヘ到^リテクダシ玉フ此時ヨリ普クヒロコホリ
 世ニ櫻ヲ譽レテ日本ノ花ト云フナリケラシ^{地下}地^下ニ至リ
 品クダシル人心ナキ身^ニモ春ハ花^ニ極^ル本ノ間ノ
 幕^ニ芝^ノ上ノ花^ニ蓮^モ豊^{ナル}代ノ勳^功ヲラズヤ^紀紀^綱望^主
 眞^マ字^ナ序^シモ^テ祭^ス其^ノ花^ノ詞^林ト書アルハ花見テ暮ス
 春^ノガ^メキ^トカ^コチ^ノ花^ノ故^檢ル身ヲバ情マシトロズサシ

ヒロコホリハ
 ヒロコホリ
 ヒロコホリ

カコチハ
 數ナリ

室町將軍表
 一尊氏ニ義詮
 三義満四義持
 七義隆八義政
 九義熙十義植
 十一義隆十二義晴
 十三義輝十四義昭

道ニアラヌ又白浪ノ心モヤサシク花鳥ノ媒優艶ノ
 カタラヒモ花嫁花簪ノ名アリ喜怒哀楽ニモ
 心ノ花ヲヒラキ代々ノ撰集物語ニモ著シ古今ノ
 妻ドコケヅリ花アリ源氏ノ花ノ官女アリ是ヨカヅ
 フレバ筆ヲ採コ惶アズ抑花道ハ往昔ヨリ
 アハトイヘトモ法モナリ式モナリ只無心ニシテ花ノ
 友善ヲ眺タルハカリナリ其後

室町將軍源義政云 御代泰平ノ時ナレバ床飭
 筆者曰ク義政ハ足利尊氏ヨリハ代目ノ將軍ナリ葎及花コケリ
 東山ノ銀閣ヲ起シ祖先義満ノ北山ノ金閣ヲ起セシ擬ヒテ天
 下ノ政ヲ忘レ茲ニ應仁ノ大乱ヲ起ス至ル是皆義政ノ罪ナリトテ
 後世ヨリ誹ヲ受ク以上代敷及名前等晴記ノマヽヲ記ス

華者曰ク
 文明後醍醐
 天白之年号
 アリ十八年
 統ケリ應仁ノ
 後ナリ即元年
 カ明仁廿九年
 ヲ去ル十四年
 八年ナリ

竹葉者曰ク
 千葉流トノ
 自慢突フ
 ニ堪ハタリ

〔筆者曰ク康正ノ後花園帝ノ時ノ年号ニシテ貞ケ年統ケリ
 即元年カ明仁廿九年ヲ去ル十四年ナリ〕
 ノ法式ヲ改メ中ニモ花ハ書院カ一ノ粧トテ康正
 年中源氏ノ花論ヲ極メ玉ヒ其後文明ノ頃東山
 ノ東求堂ニ引籠セ給ヒ御覧髪アリテ
 慈照院喜山通慶ト御改名 能阿彌
 相阿弥等ヲ召具シ茶番ナド專ラ翫ビ玉フ會席ノ
 花モ此時ヨリ用ヒ玉ヒ又千家流石州流遠州流ナ
 ドト云モ皆會席ノ花ヨリ出タリ今世ニ云フ茶花
 抛入是ナリ各花道ハ予ガ家ニ傳來ルナレトモ教ザル

曉雲三和氏
旅音アルヲ
知ラズヤ

筆者曰ク
紹鷗利休ハ
豊臣太閤時
代ノ人ナリ

故知人希ナリ茶道ノ古流モ其如ク泰山相公ノ
御秘藏ノ踏躰繪懸物珠光ヨリ傳來シテ則鷗繪
流トテ今ニ南都土門大門が家ニ残ルバカリコテ流布
セサレバ知ル人少シ生花モ古実書院教習屋等作法モアラマシ残レリ
井上友暉トモシク此西道ニ長シ是ヲ傳ヘタリ
茶道ニ申改紹鷗利休等ヲハジメ石州家遠州家ヨリ
弘マリ花モ會席茶花ノココヲ誠ニ九牛が一毛ニシテ
書院ノ法式ニカワラズ抛入ト輕ク花ヲ活ルトテ專
トシテ寂寥ヲモテ賑カケカヘ死活ヲ辨メズ教アヤマル人
筆者曰ク九牛が一毛トハ九疋ノ牛ノ毛ノ中ニテ只一本ノ毛ト云
フトコテ多キ中ニテ只一本ト云フ意ナリ則マレナルトテ云フ

筆者曰クコソノ
カクニハ成ルガ
テト書クが固
結ナリ

多シ故ニ世人立花ニハ法式アリテ活花ニハ法モナク
オモナシト思ヘリ活花ハ立花ヨリ古キトナシバナ
ドカ作法ナカラシヤ法式ナケレハ礼ナシ書院ハ
五帝ノ礼ヲ尽シタル席ナレバ活花ト唱ヘテ花ヲ
賞シ四花四葉見切見隠縁切シタルナド云フテ去リ
花ノ見ヤリコエ直行草ノ礼アリ花器モ直行草ノ
品アリ客位主位ノ花形ヲタビシ花器情ク花器ノ
清キ水ニ移シラコソ郷農鷹トモ成ベシ勿論千鶴カ

亀ノ壽ナリ時ニ女流男龍ノ對ノ花尊花モ松竹梅
ノイケカタ秘説多ク書院ノ花ニ床カガリテ傳アリ船ノ
花尊ニ出舟入船泊舟真ノ七瓶五節ノ風流セタノ草々
其傳多シ源氏ノ花ハ別傳ニシテ桐壺常木ヲ始シ
五十四瓶ノ活方貴人ニ奉ル花ナレバ印可免許ニ至
テ知ルニシ立花モ生花モ元同根ナリトイヘトモ立花ハ
巧ヲ尽シ即興ニ至ラス活花ハカシカマシト捨タル
瓢ヲ拾ヒ清水ヲ汲デ野童ノ荻捨タル草種ヲイカスニ

等者曰リ
千愛五代ハ
宜シク千辨
五花ニ改ム
シ不然意不通

其形生前ニマサシリ高山ニ池水アリ深谷ニ大本アリ
古キ井ノ芽心ニカクシ野中ノ水ノ草ヲ分ケテ流シ松
ノ高根ニ潜ルニ次アリ且ノ釣瓶ニカラム蔓アリ凡千
変万化根莖枝條葉花菓ノ七重イツレシヲ取イツレシヲ
捨ニヤ其姿情ヲ見テ鄭ホマシニ一木一草ヲモムナシカラ
ズ只現ノ子ヲ愛スルニ等シ立花ハ花ヲタテルト唱ヘ
生花ハ花ヲイケルト唱フ立花ハ真ホ心見哉流受流
前置等ノ七ノ道具ヲ護ク上段中段下段ノ差別アリ

筆者曰、室曆
ハ桃園天皇ノ
年ヲ以テシテ
三年統リ即元
年カ明法九年
ヲ去ル、百四
十六年ナリ

多トハ、位官正シク、笏、檜扇ヲ持テ、玉樓ニ立テ
鳥帽子直垂ニテ、直宿ニ座スルカ、如シ其高シハ、ア
ドモ兼日ノ用ニシテ、暫時ノ説ニアラズ、生花ハ、昼夜
シワカタズ、日々ニ新ニシテ、シカモ能ク、裁ラ尽スモ、也予竊
ニ世トノ派元ノスタリタルヲナゲキ、孟明統九年、恰平年也寶曆七年、春、二月九日、家法橋
勅許殊、此日、千葉家代々、尊シム北辰ノ祭日、
ナレハ、即日、洛東、銀閣、慈照寺ニ詣テ侍ル
七、山相公、所開ニ依テ、折節、尊像ノ、靈前ニ、生花ヲ備
ウヤ、シクモ

禁裏

三、是所、様并一條、前、淡白、左大臣、道平公、生花、
花形ハ、松竹梅、中山、以中、持愛、親卿、仰テ、依テ、繪所、額、正五位、
下、前、左、京、ノ、進、建、倉、於、臣、土、佐、光、其、方、ニ、於、テ
画圖ヲ、献シ、奉申ル、松竹梅、ハ、三、種、ノ、秘、書、ニ、セ、ズ、其、後、難
波津ニ、於テ、此、道、ノ、好、人、ヲ、集、ホ、ラ、道、ヲ、傳、フ
近頃、思ヒカケズ、江都、柳、宮、ノ、廊
下、跪キ、此、一、道、ヲ、弘、メ、ハ、べ、ル、我、ニ、親、シ、ク
志、ヲ、ハ、コ、フ、心、事、多、ク、類、ニ、先、師、ノ、德、ヲ、感、ジ

三百年年スタしたん道ノ立帰リテ中興
スベキノ時望んナルトオキケナリ浅沢
水ノアサキ心ヲ流し出デ、道野
辺、行キカフ人ノアサケリヲモ忘し垣
下萌エワタレツバヤノ今、穂こ出デ林
ノ塵泥ヲリシテアし引、山ノ雲トシモ
キ出ワハ花ノ数々内人タレカレガ自画
寫シテ見聞、備フト虽見切り見隠
其角奥深キ法方図、テハ及ビガナシ猶

此道ノ志ノアラシ人々ハヨリ、ヨリホモシ
玉フベシ我七情ヲツシテ其形ヲ示サシ天
地ハラメル種々、ツトシテ流ケ得ズト云フ
ナカラシ其ハイケルイケト云フ、味意深長
こしテ難波浦ノヨシアしモシラヌ短キ
等、ヲトリテ藻塩草、書キアツマテ
ハスボフレ心解ケガタシトワツカシ其趣
ヲホル、一、シカリ
明和元甲申冬、至日

松翁之有法橋
千葉流ト述

凡例附感周

或人問曰我幼時ヨリ花ニ好テ諸流ノ傳ヲ聞テ花ヲ
翫フ事多年ナリ千家流石州流遠州流ナド、イフ
モ皆中頃ノトコシテ只茶席ノ花バカリアリテ書
院ノ活花法式別ガタシ又生花ハ立花ヨリ出タルモノ
ト云フ人有シ故立花ノ門ニ入テ傳ヲ聞ドモ立花ハ
別段ノ作法ナシハ生花ノ家ニアラズ古ヨリ工が花
ハスビセシトバカリ聞ハバリテ今世生花ノ古実
ヲ傳ヘシト云フヲ聞ズ近頃千葉宗匠ノ源氏活花

康正三年
明治廿九年
去ル十四日
去ル年ナリ

トテ傳授セシハイカナル花実又何ヨリノ傳來セハ
事ニヤ予各曰源氏流花トイフハ往昔
室所於軍源義政公政事ノ暇月花ニ以心ヲナ木玉
ニ康正三年 丙初冬ニ江州口蒲浦寺堀文阿弥筑紫朱
阿弥京珠慶坊徳大寺義門大江廣末六人ニ命ジテ
五十四帖ノ花論ヲ極花傳抄トナシ深ク秋ニテ
宝藏ニ納玉ニ又源氏ノ花法ニ心生花ノ古流ナリ
五十四帖ノ活方并深秋ノ卷ニ種種番式活方
義君別シテは秋花アリテは宝花ニ收シ故世間ノ

知人希ナリ中ニモ珠慶坊花通堪能ナル故ニ種ノ
秘事ノ内紅葉ノ加ノ花器ト花論ノ卷ト雜有モ
下シ玉ハル夫ヨリ代々花傳深秘系家傳寶器ト
シテヒメヲクモノナリ花ノ人々カクイ授ノト予カ先祖
行育初珠慶坊弟此由緒花傳名器等有シ故源氏流生
花ト号スルナリ源氏五十四帖ノ内花実ハ散在
シタルナリ

御幸花実 不老門ト云名物
遷標花尊

相玉寺ニ有リ
六条家ニ有リ

簞大花書

旅ノ裏葉花志

東屋花志

夕雲花志

日花 書 楊ノ盆上云名物

奥屋花書 横笛掛板繪合花書

坂銀閣延照寺ニ残リ

紅葉燈花志

桐書 盆本

一条寺ニ有リ

千宗ニ有リ

清水寺ニ有リ

銀閣ニ有リ

前田寺ニ有リ

予カ 家ニ付来

同

慶長十八年
明徳廿九年
去ルニ百八
十四年ナリ
慶長十九
年統ケリ

其外ノ花器ハ有テサダカナラズ

源氏全部花法ニ堪枝ノ人ニナリニバ授ケル一カヲシ

此書ニ著スル外ニ寺院ニ所載其外今席等ノ花形ヲ

初心ノタメニ出ス源氏ノ巻々ノ花形ハ秘事ニカ故ニ

一向花形トシテ毛圖ニ出サズ源氏活花ノ古実ニ慶長

十八癸丑年土月十八日泰モ

台命ニテ江州ノ義郷ニ東山ノ花論江陽ノ家ニ

有ニシト仰アリテ源氏五十四帖ノ花論深秘ノ

書ニ私考ヲ加テ贈進アリシナリ

明暦以後西院
天皇の御年
号ナリ治世
九年の去ル
明暦二年月
日百四十年
ナリ

天文以後奈良
天皇の御年
号ナリ治世
九年の去ル
明暦二年月
日百四十年
ナリ

江陽五家ノ日記ヲ集テ書明暦二年改板江源武鑑
ト云フ記全部二十卷アリ十八卷目ノ終ニモ花論
所望ノ事出たり右江源武鑑ニ花論云ノ連衆
内大江慶末ヲハブキ池坊泉純泉能ハ泉
應ナラシカト云フ者
シキキ入レタリ池坊ハ源氏花論ノ連衆ニアズ別
シテ義郷ノ家ナリシ花論ノ末ハ大江慶末ヨリ
伊集ナシバ大江氏ヨリハブキテ池坊專純ト書シ
其意得ガタシ

倭漢三毛漏會ニモ六角堂夜宿寺ノ一ツ書シ
中ニ坊舎五坊ノ中池坊ノ一出タリ云ハ花相傳
ノ一ハ東山同時同朋專慈最モ之ヲ善クス天文
二年ナリ

五年正月十七日花は抄ヲ著ハシ池坊其系ヲ継テ
之ヲ善クシ累世專ノ字ヲ以テ名トナス中興專
好ナル者アリ堪能シテ法式ヲ定メタリ家ニ不
卷如大巻物及秘傳抄ヲ撰ムトアリ源氏流
花ノ花論ハ康正二年去ルハ廿九年
西暦四十年也ナリ立花々々
抄ハ天文五年去ルハ廿九年
西暦四十年也ナリ源氏流
凡八十年モ後ノ一ナリ其後池坊之ヲ継ガ
トアリ時代モ相違セリ江源武鑑ハ後世モ
故相違スト見えハタリ

凡例或問終

源氏流花記上

書院の會席等ヲ流カ
心得并花名ノ事

都テ花ヲ見ルハ眞行草ノ礼アリ書院ハ座敷等ノ差別
モアリ其心得モナク花名ノ側近ク水中ヲ見ルハ甚
此礼ナリ其主方ヨリハ郷農鷹ノ花ナレバ其心得アリテ
見エクカルベシ見ヤウ挨拶シテモ花ニ心得有ト無トハ
甚席ニ顯ルモノゾカシ能ク甚通ヘ入テ尋辨知
ベシ其主ノ方ヨリハ馳走ノ花ナレハ時候ノ花法ヤウ
等モ習ナクテハ流サルコトトシリ先花ヲイケンと思ハ諸
花ノ出生ニ見分テ流ルヘ肝要ナリカ木ノ草トモ葉生

しテ花咲クモノナシバ葉多ク花サケツカフカ出生ナリタマク
花ヨリ咲初ルモノアシトモ又格別ナリ花ミリシヤフバ
一リンハツボミ一リンハ中周キ満周ト傷者ハシ花葉トモ
表裏モ有ハシ出生ヲ知ラシバ花斗リ多ク葉少シ故ニ花
形畫式ノ始ニ六品ニテ出生ヲ顯ハセシコトヲ付テ見レバ
余リ風情ヲ付テタメエカメテハ風情アシドモ死花ニナル
モノナリ其匠ニテハ塵穢アリテ見コウシ穢ラキイカモ
清ラカシ出生ヲ其カヌコソ花ナラメ太蘭本賊ノ類ニ直ナル
カ出生ナルシ余リ曲リクネリタルハ病ナリ直ニテ動キモノハ

守者曰リ
尊ハ樽ナ
リ尊ノ字
タルト誤
マヤ
タル所ハ漢
書ニシタ
クシ

花シカギズ死物ナリ長短モアリ風情モ有テコソ汚物ナシ
過タル及バサレシテ中流ニ能クワキマヘテ流ビキナリ産ノ
マニコトハ花瓶ニカケリガワシクシテ行義モナシ人モ教サシ
ハ五帝ノ道モ辨知ラシヤ其五帝ノ花ノ教テイケルナラバ
出生ノ其月ズシテ一瓶ノ内ニ春秋ノ趣キアラシ凡瓶ハ花ヲ洗
フハ性者欽明天皇ノ御宇異玉ヨリ瓶ヲ賜リシタメシアリ
花瓶ヲ一瓶ニ瓶ト云モ此謂ナリ花尊ハ性者ノ酒器ナリ故ニ
尊ノ字ヲ書ク今世ニテ用ル花器ハ銀鴉利休以來茶ノ宗匠ノ
好ム所ナリ種々ノ花尊出末タルナリ古ノ花尊世ニ希也

會席ノサキ花富バカリ多ク近頃予古実書院向キ弘
メシテヨリ大キナル花器等モ出タリ書院ノ花被義カナシ
バ賑カク富貴ノ粧ヲ專トス花器清ク水清ク水モ濃
清淨トシテ花床ノ格好花尊モ花モ相應テ用フ花
ハ花器相應タルニシ富貴ノ花ト云フハ花沢山ナルが富
ル次女水際ヨリ枝葉花ノソナヘ奇麗ナルが貴ノ次女コテ
富貴ノ花ナリ賑カク沢山ナルが宜シトテ櫻ツク多ク流ル富
バカリコテ貴ナシ人モ富タリトテ尊カラズ志ノ拙カラズ
コフ富貴トハ云フベシ貴賤トモ富貴ノ人希也花

出生コトハ自然ト執カ強ク優美ト貴ク潔ヨシ書院ノ
花ハ床カカリナシバ花形ノ行義肝要ナリ風流ヨリ年
枝葉ノ屈曲カナルハ生花ノ本意コトヒカタシ出生ヲカトスル
花ハ通ホコシテ風林ナルがヨシスナホナル枝葉ノ中ニ
自然ト風情アリテ言説トシシガキ花姿ヲカフカ手鍊也
年直タリトテ風情ナシハ見所ナシ書院床カカリノ
花コト其時節ノ花ヲ用テ被義コヨリ夫レノ花
去リ嫌ヒアリ其花トテ平生學ミ花ヲイテル時ハ花
美善ヨ用ユ又花會トテ諸花ヲ集テ翫フトキハ無量ナ

花尊花モ物好次并ニテ異ツ形ナルモアリ花葉枝莖亦モ
異ツ風ナルモクルシカフク形ハ多量ニカワルトモ出生ク北
カイル一肝要ヤリタト一抛入ト輕ク花ヲイケルトテモ出生
北テハ抛入シテアズキ手バヤリカルクニ念ヲツカズ流ルトモ花
ノ行義モカマハズムシヤウニナゲ入クト号ラキ手早ク
ハナスコノミツテ一トスルモアリ流花ノ理コイマカシキ
人ノ一ナリ花ノ出生ヲ知ラズシテ死流モ辨サル花
ナレバハ重クテモ流ルシサノコ羽カモ及アベカズ又花
ノ出生シママハズシテ心ノ花ヲ流ルト云テ手早キ事ヲ

詠
詠
詠
詠

是ト心得タル會席茶席ノ花斗リ見テテ度下
ヲ知ラズ自ニテ了簡ナルシ心ノ花ヲ流ルト云フハ先カ一
心直クシテ邪疑ナクニ念ヲ加ヘズ花ヲ出生セザルヤリサモ
無理ナリ流ルコソ信テ心ヲ出タル花ノ次女ナルシ花ハ心ノ
通リシ花飛シアラハスモノナシハ一流ノ内ニモ銘々ノ好ム
所ノスガク頭ルモノナリ利休業茶ノ宗匠達モ皆東
山ノ古實ヲ守リテ甚上自身ノ好ム所ヲ流ラレシナリク
トヘテハ一教迦ノ教法モ八宗九宗ト祖師ノ好ム所ヨリ
諸宗起リテ麓ノ万水ニ流ル影モ峯ニ立テテ詠ハレバ

月光一輪、如く、草木千草ノ出生ノ理ニツキテ、童蒙モ知
ル天地ノ三才大極ヲ以テ陰陽ヲ行テ配當シテ、迹ヲ研シ
フシテ、理學トテ、理屈シ、落テ必^ル業^ヲコウトキモナリ
タトハ、醫者ノ學カシケテモ、瘡治不功者ナレモ有カ如シ
或^レ洋内ルハ、ボリテ天トナリ、濁^ル地トナリ、トテ、白キ花ハ上
赤キハ下トテ、花ハ上下ヲ定メ、東ハ咲ク花ハ東、西ハ
西ハ咲ク花ハ西ト出生シ、心得タレモ、アリ、時節ノ花ハ陽
ハツカヒ、時節コアラサハ、花ハ陰ハツカヒ、又コラミノ花トテ
西方、引張セテ、違フ、是皆偏屈ナレ、簡ナリ、天地ノ向

こ生スレハ有情非情トモ、陰陽ノ氣ヲ集メケテ生スルモ、故一花
一葉ノ中ニモ自然ト陰陽備ハレ、出生ヲ以テ、カスツカフナラ
バ、是量^ノ汝^ノアリテ、凡流ナラシ、花ハ寸法ヲ極メ、タリ、色ハ上
下ノ差別有ト云フ、トモナシ、或ハ花器ノ尺^ノ應シ、寸
法ヲ極ルト云フ、トモ、聞ケ、氏法花ハ片執ナシ、只花^ハヨリ、花
尊^ハヨリ、床ノ枕好シ、このカヒ、花モ器モ、又相應見^テヨロシ
キ、トハ作者ノ心得、傷キナレ、ハ斯ク、イハ、トテ、狼藉^シセヨト
コハ、アラス、先ツ大概、花尊^ハ一タケ、半ニタケ、エテ、モ宜シ、花
コヨルベシ、予ガ工夫、直龍形



四月形
トモ云フ

ト云フ、花器^ハ高ハ

式寸ハカリアレドモ^{ツクモグサ}草ナド心ヨリ育タムハ三四尺モ
之ノホウモユタカニ流テモ一キハ水際アラハシテイサギ
ヨリ格好ヨロシカ座敷又ハ四畳之畳ノ席ニ大書院ノ
花器用ニカタシ大書院ノ花器ヨリ二畳之畳ノ席ニハ相
應セズ花ニ限ラズ諸道具其格好アルニ同シ書院ニ
テ花ヲオノ飾トスルハ花ハ流物ナルカ故也出生クハ形ヲ
粧カ祝義ナリ花開クモ古法ノ通り行義ヲ乱サズ流ルカ也
都ラ床飾ハ法ズアリテ花ハカリ法ナクハハヒガタシタトハ
會席茶席タリトモ出生リカマハズ花開クモダシテハ茶饗

應ニ成ガキ活物ヲオトスルニ活方ヲ知ラサレバコトドク
死花ニナリナリ不徳良徳不祝儀ナリ活方手練シタルハ
コノツカラ花モ生キトシテ誠ニ生じタルカ如シカ座敷
茶席等ノ即席ニ生ケル花ハ花ドノナクトモ自由ニ花留
ルモノナリ貴人ノ御前ニテ御所望アリテ即席ニ流ル
時ニ法方別ニ習アリ書院風強キ所ナドニ花置時ニハ
花留ナシニ花形ニダレヤスキ故ニ花留花串等ヲツカフニ
習アリ花器ニワラハコ入テ花ヲサスニハ流花ニテハセ又
ナリ流花ハ水中マデモ清ラカニ顯ハシ見ズヤウニスル

ヲヨシトスシホラシキ則興ノ花ソノキマトモニモ及ハズ花
ヲ折カケテモ留見活花ニ花ドノ心心得タル地入斗リ
實ニテ書院向ノ一ヲ知ラガルナリ花ドノモ初心ノ人所
作ニ甚見悪クシ文ニ手跡ホドナリ花手練ノ人ハ花留モ奇麗
ナルヅカシニ花研物朋塚ト凡アリテモ花形ニガシズ是見
テ近頃世トテ活花ト称シテ研物体ナドニ板込ヲ入研利ヲ
敷ケルモアリ是ハ正シク立花研物ツツシナリ活花ノ
作法ニ叶カクシ活花茶花ニ花研物朋塚ト分テ作法ヲ守リ
紛ハシカラサルヤウニ心得タキモノナリ置花器ノ形ニ量成

ヲ用ニ花臺博板等モ花ニ應ジテ用テナリ置花器ハ真
ノ花器ニテ書院ホ一様ナリ懸花器モ形無量ナリ金銀
銅鉄竹木陶磁具類ニテモ作ルナリ竹ノ花器ハ一重切二重
三重五重マテナリ上ノ竹輪ヲ月輪ト云フ月輪ヲ見切ガレ
所要ナリ花器ニ竹輪ヲ貫通シケルヲ雜柳條ト云フ古
事アリトテ傳授スルアレトモ古實コトナシ比近頃ノ
作意ナリ信仰スルニタラズ懸花器ノ折釘ハ古實アリ
花器ノ打釘ハ元ヨリ花器ノ釘ニアラズ戦玉ノ時分屋
間ニ軍用ニ打タル釘ナリシヲ御治世ニナリ弓モ袋ニ

納りし時ナレバ氣尊ノ釘直し用ヒタルナリ故ニ寸法ニ
傳アリ氣ノ法方ニモ習アリ折釘ノ打所寸法バカリヲ知リ
テモ此法實ヲ知ラサレバ氣ノ法方分リカタシ仍テ懸花
器ノ折釘書院ニ打モノニアラズ居間ハ座敷ノ柱ニ打
モノナリ船ノ氣置所前時刻ヲ限リケルモノナリト堅ク
覺タルナリ且理ヲ書シテ見ルニ舟ニ春ノ末ヨリ夏秋ノ
初マデ用フ一日ノウチニモ時刻アリ朝ヨリ四ツマデ出舟
四ツヨリ八ツマデ入舟セツヨリ泊舟ト心得ケルガ習ナリト書
タリ今ノ偏屈ナル教ナリ是モ在實ニ一向無キナリ

舟ノ氣置ハ海川通船ニタトヘタルモノナレバ四季ノ分チモ
時刻ノ分チモナシ東西南北ノ順ト往來スルモノナリ
逆風ナレバ朝ニテモ昼ニテモ泊舟トナル出入モ其如ク
舟ノ氣ハ其客ノ品々ニヨリ出舟ノ船泊舟其外船モ有リ
何シモ生方羽アリ金リ理屈過キハ却テ風雅ノ道ニ
ウトシ舟ノ氣置モ格好ニヨリ魚量ナル形ヲ用ユ釣船モ
クサリモ物好キ次ナリ釣氣ハ舟トハ又格別ナリ是モ
魚量ナル形アリ釣船モ品々アリサレ物釣船ニ寸法アリ其外
何ニテモ好キ穿ルニシ鑲モ釣緒モ好キ次ナリ棕櫚繩打紐ノ

類モヨシ釣ヤウ上下ノ別アリ重^ネ釣瓶組ヤウサ^ク有リ
一ツ釣瓶鎖^コテモ竹^コテモ釣ル尤^ク釣ヤウ有^リ置釣瓶モ置様
活ヤウ習アリ学ヒテ知^レル^コ物^ジテ舟^ノ限^ラズ活方諸
祝義式法表巻切紙傳アリ後^ニ箇条ヲ記シ置ナリ皆盡シ
東山 源君ノ規矩ヲ示シ給^フナレドモ中絶シタレバ
知^ル人^モナリ亦^ハ終^ニ花^ノイ^ケ活^花^ニ在^ル法規矩モナキ
ナリトサ^スル^ノ多^キハ^ハナリ^テ当^ノ流^ノ教^ハ花^ヲ活^ハ
全^クナ^レズ^ニ實^ニ執^云ナ^レバ^ハ心^ニ邪^ニ疑^ナリ^ト是^ハ非^ラハ
ズ自^ラ賛^毀他^ヲ大^ニイ^マシ^メ給^フナ^リ必^ズ我^ノ意^ヲ存^スベ^カズ

後世花^ノ疑^感ス^ル心^ノ為^ニ古^ノ實^ノ一^ノ卷^ヲヒ^クキ
書院向^テ座^敷ノ花^茶花^等至^ルマ^デ總^ニ自^ラ車^ヲ
ヲ以^テ花^形ヲ^圖シ^テ初^ニ學^ブノ^一助^トモ^ナラ^ズト^モ世^ニ
及^スモ^ナリ

源氏花論云帳深秘

○算中木

○紅葉が貝

○須磨

○吹石

○雲隱

○東屋

表之長尾箇條

- 花數及葉數ノ一
- 十文字見切ノ事
- 色切并同色ノ事
- 葛蔭松葉ノ類葉邊ノ事
- 角口花邊目口花邊ノ事
- 花邊水打ト不打トノ事
- 草物類ノ事
- 密花生小節花掛物阴阳ノ事
- 花斗ノ葉斗ノ事
- 長競ノ事
- 花葉流副ガレノ事
- 向枝壁枝向花ノ事
- 卓下花邊ノ事并香爐付
- 花板露堂ノ事
- 廻リ花ノ事
- 密花入仕廻リノ事

○ 花生置、掃定ノ事
 ○ 生残、花納、以ノ事
 ○ 掛繪、花、繪、奉ノ事
 ○ 寄位、主、停ノ事
 ○ 祝義、嫌、二、花ノ事
 ○ 花、切、ル、時ノ事
 ○ 萱草、八、ノ、花ノ事
 ○ 傳子、ノ、花ノ事
 ○ 追善、并、中、陰、ノ、花ノ事
 ○ 二重切、三、花、折、置ノ事
 ○ 出陣、花、城、并、旅、出、陽、玉、花ノ事
 ○ 出舟、入、船、泊、舟ノ事
 ○ 竹、葉、花、里、ノ、事
 ○ 厚、板、交、様ノ事
 ○ 古、車、花、心、持ノ事
 ○ 真、行、草ノ事
 ○ 座敷、之、露、生、様ノ事
 ○ 二重切、生、様ノ事
 ○ 同、賞、院、ノ、花ノ事
 ○ 相、答、花、見、様、作、法ノ事
 ○ 男、女、赤、白ノ事
 ○ 五、節、句、ノ、花ノ事
 ○ 座敷、不、出、花ノ事
 ○ 室、咲、并、花、切、様ノ事
 ○ 沖、前、ノ、花ノ事
 ○ 移、徙ノ事
 ○ 花、ノ、花、ノ、縁、マ、タ、セ、ルノ事
 ○ 二重切、花、置ノ事
 ○ 釣、花、置ノ事
 ○ 鎖、寸、法ノ事
 ○ 細、口、花、号ノ事
 ○ 古、銅、花、入、汗ノ事
 ○ 花、器、割ノ事
 ○ 掛、物、以、之、様、ニ、ヨ、リノ事
 ○ 庭、様、之、生、様ノ事
 ○ 三、重、切、法、様ノ事

○ 花生置、掃定ノ事
 ○ 生残、花納、以ノ事
 ○ 掛繪、花、繪、奉ノ事
 ○ 寄位、主、停ノ事
 ○ 祝義、嫌、二、花ノ事
 ○ 花、切、ル、時ノ事
 ○ 萱草、八、ノ、花ノ事
 ○ 傳子、ノ、花ノ事
 ○ 追善、并、中、陰、ノ、花ノ事
 ○ 同、賞、院、ノ、花ノ事
 ○ 相、答、花、見、様、作、法ノ事
 ○ 男、女、赤、白ノ事
 ○ 五、節、句、ノ、花ノ事
 ○ 座敷、不、出、花ノ事
 ○ 室、咲、并、花、切、様ノ事
 ○ 沖、前、ノ、花ノ事
 ○ 移、徙ノ事
 ○ 花、ノ、花、ノ、縁、マ、タ、セ、ルノ事

○五重切生様ノ子

○茶席花生様ノ子

以上
右幸四箇條一年程執事古有四季ノ花出生遣
ヒカタモ相分執心ノ人々ニ右箇條一卷トシテ付授セ
しムルモナリ

切紙傳授箇條

- 大華遣但ニ葉ノ子
- 一花葉ノ子
- 葉二種ノ子
- 杜若葉通澤沢ノ子
- 毎月花ノ子
- 名月ノ花ノ子
- 紫舟ノ子
- 置船ノ子

- 大華四季ノ遣ヒカタノ子
- 秋海棠ノ子
- 杜若四季遣ヒカタノ子
- 水仙ノ子
- 七夕ノ花ノ子
- 走舟ノ子
- 破損舟ノ子
- 二艘置舟ノ子

- 掛物ト花ノ子
- 三幅對ノ子
- 五幅對ノ子
- 笠ノ子
- 搔板ノ子
- 花筵ノ子
- 水刀ノ子
- 地下ノ人火打サスガノ子
- 夜會ノ花ノ子
- 二幅對ノ子
- 四幅對ノ子
- 會席粧ノ子
- 手中ノ子
- 花團ノ子
- 提ノ子
- 剪刀ノ子
- 大將宗匠裝束刀ノ子
- 三葉一花ノ子

- 二艘釣舟ノ子
- 湊入船ノ子
- 櫻ノ子
- 松ノ子
- 蘭ノ子
- 貴人ヲ拜領ノ花ノ子
- 婚禮式對花器但長層板ノ子
- 婚禮盃ノ向花ノ子
- 袴着具足着用初ノ子
- 三艘釣舟但霞ノ舟ノ子
- 一種花ノ子
- 紅菜ノ子
- 竹ノ子
- 菖蘆ノ子
- 婚禮式ノ花ノ子
- 婚禮書院花法方ノ子
- 女龍男龍ノ花器ノ子
- 眞ノ七瓶飾ノ子

○糸競花結ビリ子

○切張花面花串ノ子

以上

右切紙五十四ヶ条ハ手煉深志ヲ見届切紙ヲ以テ
口授セシム表五十四ヶ条切紙五十四ヶ条残ニ相
添ハ上海氏五十四ヶ条アリ都合百ヶ拾五ヶ条
也

書寫

内人

大橋龍我



源氏活花記 上終

千桑法下氏ハ源氏流花道ヲ
唱道ニ曾テ真ノ源氏流徳大寺
殿下ノ御流ニナヅラ最トマギラハ
シカレバ徳大寺殿ヨリ嚴シキ法沙
汰ヲ蒙リタリ然ルニ此書ヲ著ハシ尚
真ノ源氏流ヲ擾乱セトス此道ノ為
メニ悪ムベキ所為ト謂フベシ徳大寺

殿は免許源氏流と元曉雲高好
訖、直弟徳大寺殿は免許播磨國
會頭鳳尾高龍松通名宗野氏ハ今
此流トノ末流ノ族アリテ當流ヲ擾
乱セシテヲ自愛、或処ヨリ此書ヲ得
テ騰寫シテ予ニ囑托セラル事ニ
務ノ餘暇等ヲ採テ其年數

等ヲモ調メ月々欄外ニ書入シテ
所如ニ只是レ此書ハ鳳尾高
先生ノ他日ニ参考ニ供セラル
書タルナリ聊カ茲ニ託スル如

此紀元二千五百五十六年
明治廿九年一月吉日

揖東郡矢田部村

鳳尾高門人

凌雲高松戀山事

富田忠重去

謹寫

紀元二千五百五十六年
明治廿九年一月吉日

德大寺殿御免許

播磨國會頭

鳳尾高松

藏書





